

2023年3月期決算 説明資料

2023年5月25日

証券コード：5162

サマリー

- 2023年3月期は、自動車向けのASA COLOR LEDが、半導体不足など部材調達難の影響を受けて売上減となったが、医療用ゴム製品や卓球ラケット用ラバーの受注が大きく増加したことで増収となった。
- エネルギーコストの上昇および営業活動の販売力と技術サービス力向上を推進する人員強化による販管費の増加により、営業利益は減益となった。
- 2023年4月からスタートする第14次三ヵ年中期経営計画を策定。次の成長ステージに向けて取り組みを加速する。
- 2024年3月期は、上期は半導体不足による受注調整の影響が続き、自動車用ゴム製品の受注が低下する見通しのため、微減収減益となる見込み。

2023年3月期決算説明資料 目次

I. 2023年3月期決算実績

1. 連結決算実績	4
2. 連結設備投資実績	5
3. 中期事業分野	6
4. 中期事業分野別実績	7
5. 主要製品実績	8～11
6. 連結子会社の損益実績	12
7. 連結貸借対照表の状況	13
8. 連結キャッシュフロー実績	14

II. 第14次三ヵ年中期経営計画

1. 前中期計画の振り返り	16
2. 4事業振り返り	17
3. 中期経営方針	18
4. 中期業績目標	19
5. EXとCX	20
6. OEMからODMへ	21
7. CX 事業分野別取り組み	22～26
8. EX 取り組み	27

III. 2024年3月期予測

1. 連結決算見通し	29～30
2. 中期事業分野別見通し	31
3. 主要製品の通期売上見通し	32
4. 連結設備投資計画	33
5. 配当計画	34

I. 2023年3月期決算実績

II. 第14次三カ年中期経営計画

III. 2024年3月期予測

I-1. 連結決算実績（前期比）

（単位：百万円、％）

	2022年3月期		2023年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期増減率
売上高	7,024	100.0	7,205	100.0	2.6
売上総利益	1,691	24.1	1,758	24.4	4.0
営業利益	291	4.1	185	2.6	▲36.4
経常利益	313	4.5	194	2.7	▲37.8
当期純利益	238	3.4	203	2.8	▲14.9

- 医療用ゴム製品と卓球ラケット用ラバーの受注が好調で増収。
- 材料費やエネルギーコストの増加、営業活動の販売力と技術サービス力向上を推進した人員強化による販管費増加により営業利益は減益。

（単位：百万円、％）

セグメント別	2022年3月期		2023年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期増減率
工業用ゴム事業	5,830	83.0	5,765	80.0	▲1.1
医療・衛生用ゴム事業	1,193	17.0	1,439	20.0	20.6
売上高	7,024	100.0	7,205	100.0	2.6

（単位：百万円、％）

地域別	2022年3月期		2023年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期増減率
国内売上高	5,314	75.7	5,402	75.0	1.7
海外売上高	1,710	24.3	1,802	25.0	5.4
アジア	1,581	22.5	1,675	23.3	6.0
北米	118	1.7	116	1.6	▲1.5
ヨーロッパ	10	0.1	10	0.1	2.0
売上高	7,024	100.0	7,205	100.0	2.6

I-2. 連結設備投資実績

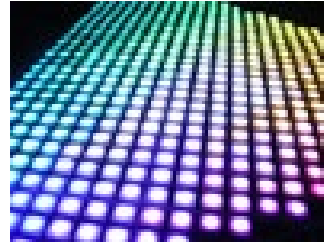
(単位：百万円)

2023年3月期 実績		主な内容
光学事業	17	LED生産設備効率化、透明レンズの生産設備など
医療・ライフサイエンス事業	80	回路製品の生産設備導入など
機能事業	200	卓球ラケット用ラバーの生産設備導入など
通信事業	27	RFIDタグ用ゴム製品生産設備改良など
その他	15	
合計 (減価償却費)	339 (420)	

I-3. 中期事業分野

光学事業

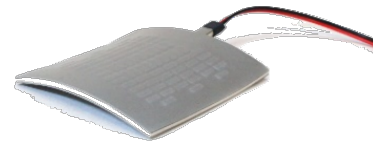
主な製品：ASA COLOR LED
ASA COLOR LENS
白色シリコンインキ



「感性、共感」をキーワードに、色と光を制御する技術と感性技術を磨き、自動車の内装照明市場から外装照明、またアンビエント照明に向けた技術開発と提案を進める。

機能事業

主な製品：自動車スイッチ用ゴム
卓球ラケット用ラバー
F-TEM（フレキシブルサーモエレクトリックモジュール）



ビークル分野、エネルギー分野、環境発電分野、スポーツ分野において制御技術と触覚・熱・振動・光関連の技術、感性技術を磨き、将来のライフスタイルの実現への貢献に向けて、弾性無限で人に優しい感性価値を提供する。

医療・ライフサイエンス事業

主な製品：プレフィルドシリンジ用ガスケット
採血用・薬液混注用ゴム栓
ARチェックバルブ
マイクロ流体デバイス



診断・治療分野、理化学機器分野、介護・予防分野に向けて制御技術と感性技術を磨き、世界の医療現場と患者のQOL（Quality of Life）向上に貢献する。

通信事業

主な製品：RFIDタグ用ゴム製品
やわらか保護カバー

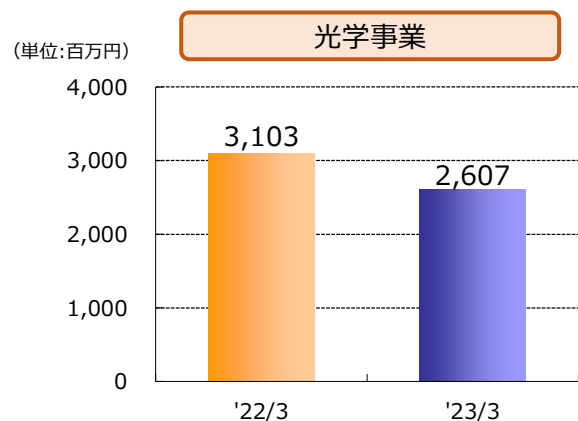


自動認識分野、通信機器分野、センシング分野において、伝える・伝わるセンシング技術、触覚・熱・振動・光関連の技術、感性技術を磨き、ゴムだからこそ実現できる価値を提供する。

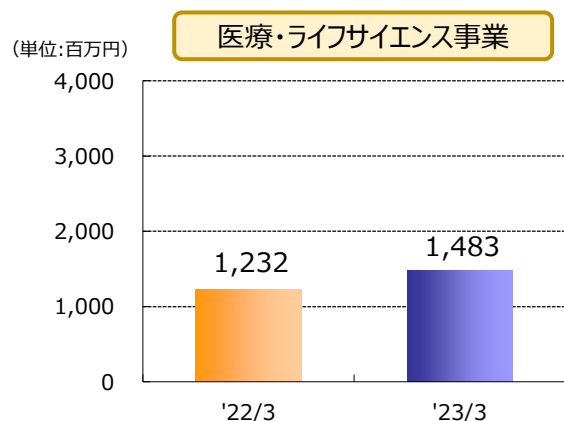
I -4. 中期事業分野別実績

(単位：百万円、%)

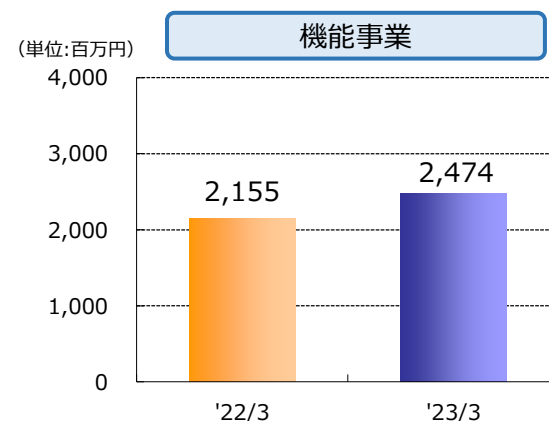
事業別売上高	2022年3月期		2023年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期増減率
光学事業	3,103	44.2	2,607	36.2	▲16.0
医療・ライフサイエンス事業	1,232	17.6	1,483	20.6	20.4
機能事業	2,155	30.7	2,474	34.3	14.8
通信事業	532	7.6	639	8.9	20.2
売上高合計	7,024	100.0	7,205	100.0	2.6



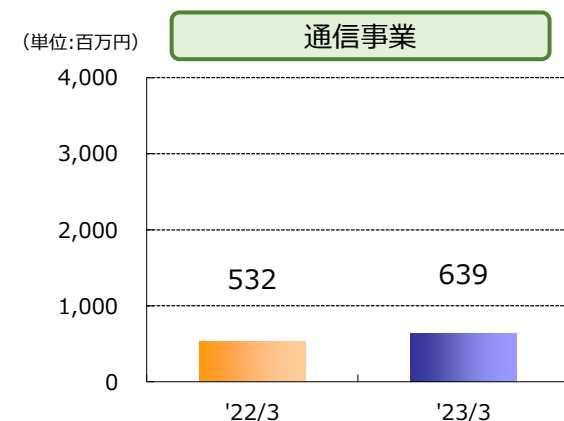
●ASA COLOR LEDの受注が、自動車生産調整の影響を受け減少。



●一部製品の在庫調整の影響が解消し、製品全般で受注が増加。



●スイッチ用ゴムなど自動車向けが市場の回復を受け受注増。卓球ラケット用ラバーの受注も増加。



●RFIDタグ用ゴム製品の受注は徐々に回復傾向。

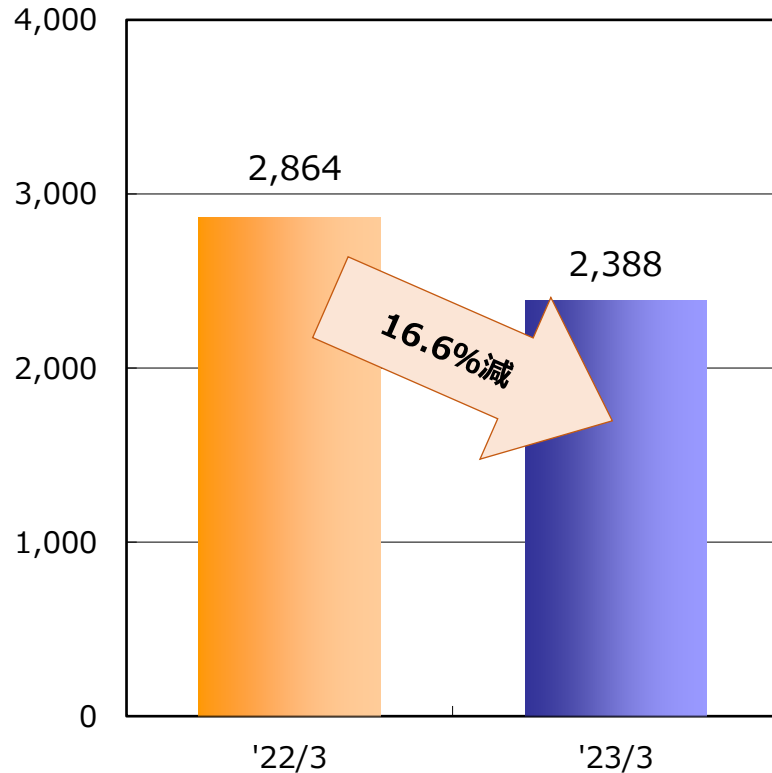
I-5. 主要製品実績－ASA COLOR LED

工業用ゴム事業

光学事業

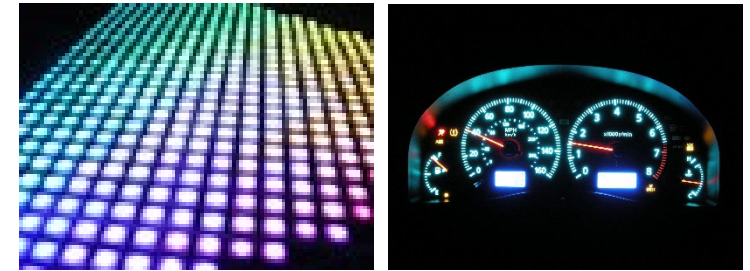
(単位：百万円)

連結売上高推移



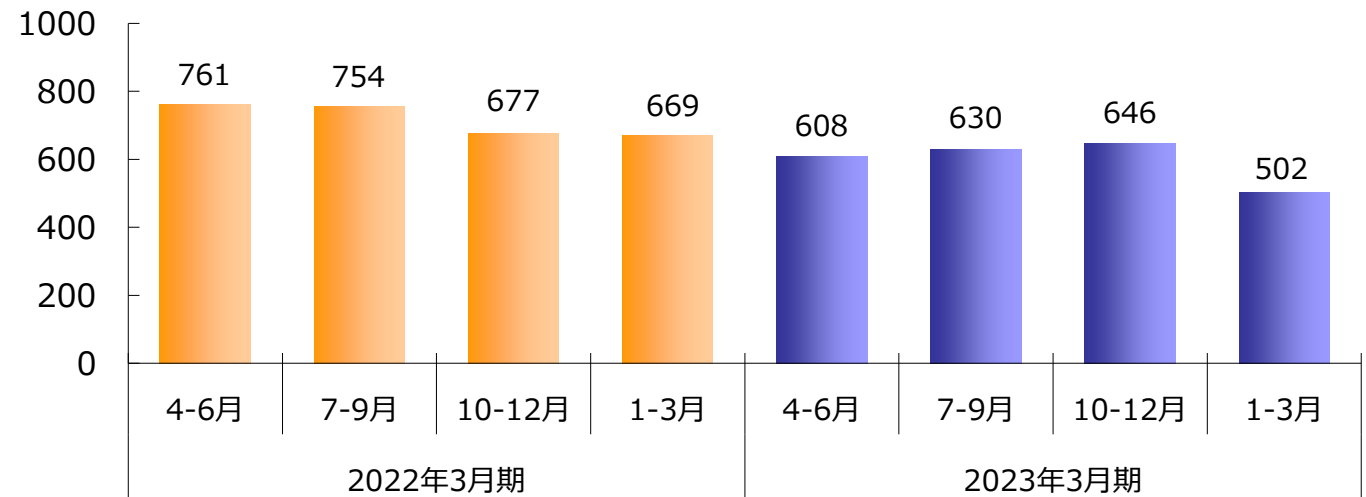
ASA COLOR LED

蛍光体を配合したシリコンゴム製のキャップを青色LEDに被せることで10,000色以上の光のバリエーションを提供できる。自動車内装照明や特殊照明向け。



(単位：百万円)

四半期会計期間の売上高推移



- 当期前半の中国のロックダウンや半導体不足による受注減の影響は、ある程度底打ちしつつあったが、自動車生産の本格的な回復は見通せず、先行きは不透明で一部タイプの受注が減少。

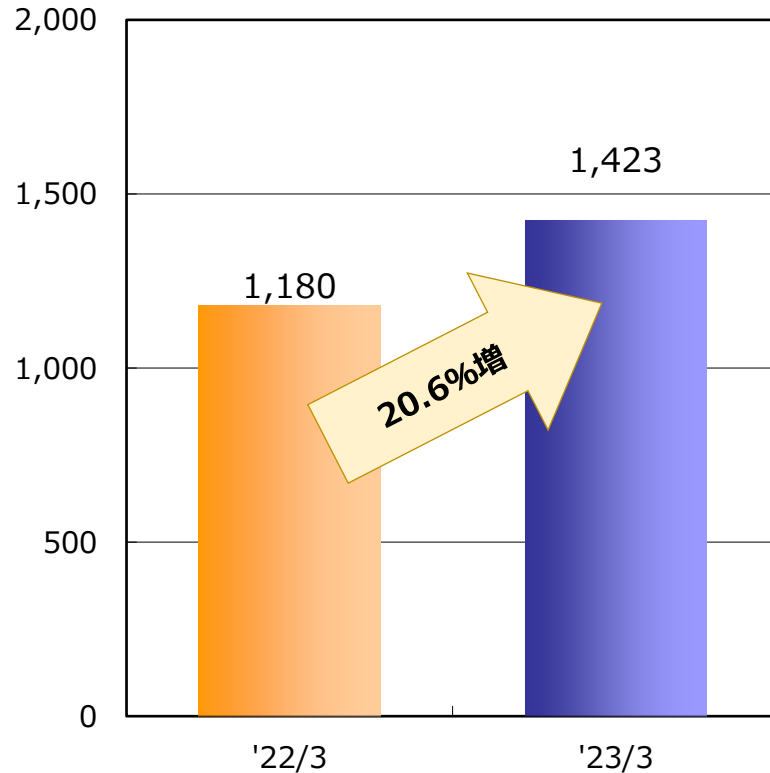
I-5. 主要製品実績－医療用ゴム製品

医療・衛生用ゴム事業

医療・ライフサイエンス事業

(単位：百万円)

連結売上高推移



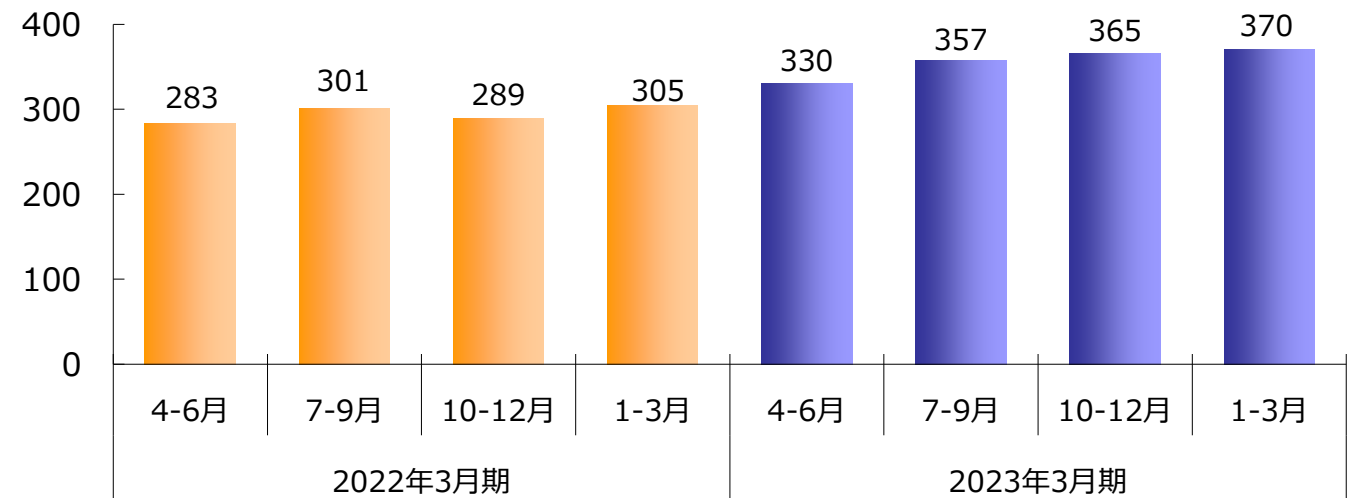
ディスポーザブル用ゴム製品

プレフィルドシリンジ（薬液充填済み注射器）用ガasket、採血用・薬液混注用ゴム栓、ARチェックバルブなど、使い捨てのディスポーザブル用ゴム製品。



(単位：百万円)

四半期会計期間の売上高推移



- 当期より、一部製品の在庫調整が終息したため、売上高の回復傾向が鮮明となる。
- 第3四半期に引き続き、第4四半期も四半期会計期間で過去最高を更新。

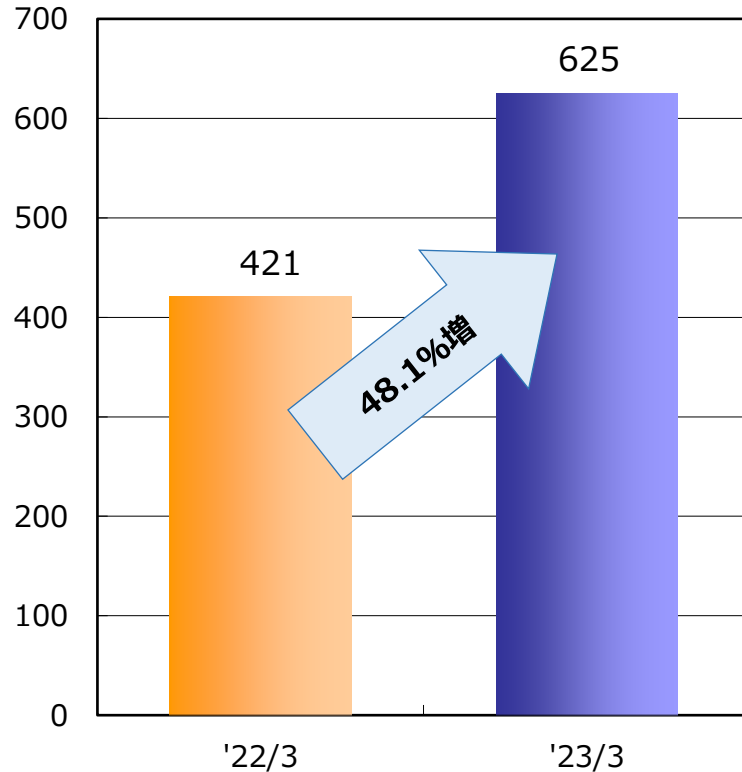
I-5. 主要製品実績－スポーツ用ゴム製品

工業用ゴム事業

機能事業

(単位：百万円)

連結売上高推移



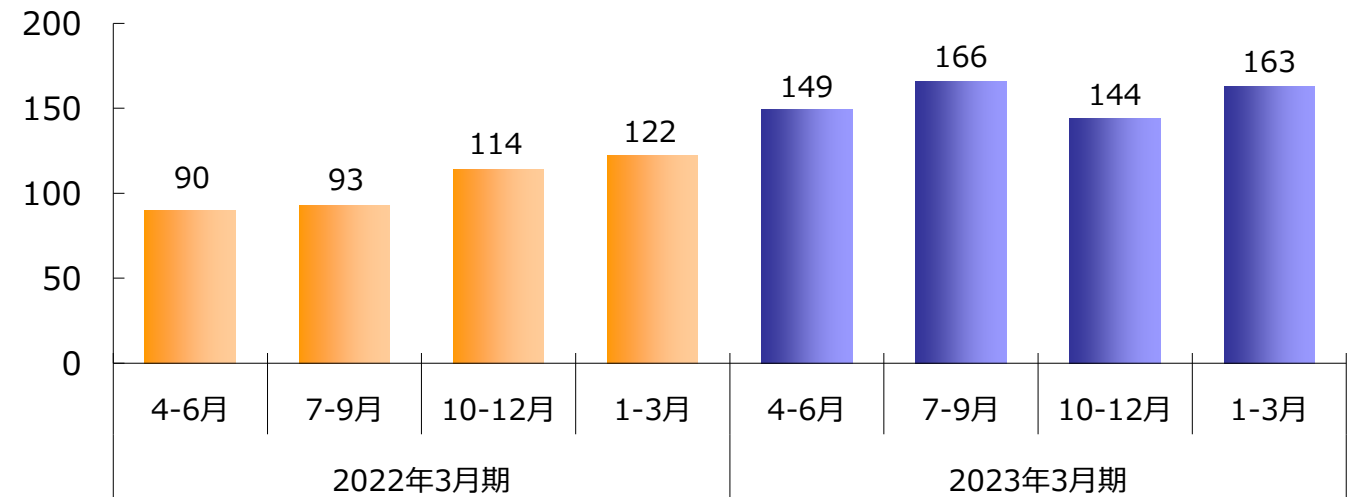
卓球ラケット用ラバー

反発弾性、高摩擦抵抗などを追及した高品質の卓球ラケット用ラバー。



(単位：百万円)

四半期会計期間の売上高推移



- 競技再開と円安による顧客の海外市場での競争優位性向上から受注は増加傾向。
- 第3四半期は生産体制拡張準備のため一時的に減少したが、第4四半期から回復し増加傾向が続く。

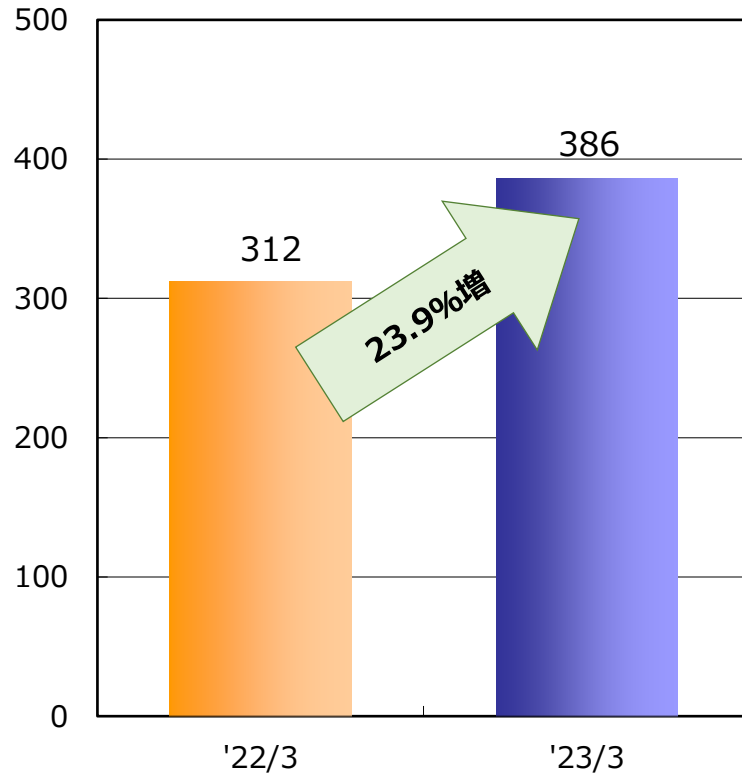
I-5. 主要製品実績－RFIDタグ用ゴム製品

工業用ゴム事業

通信事業

(単位：百万円)

連結売上高推移



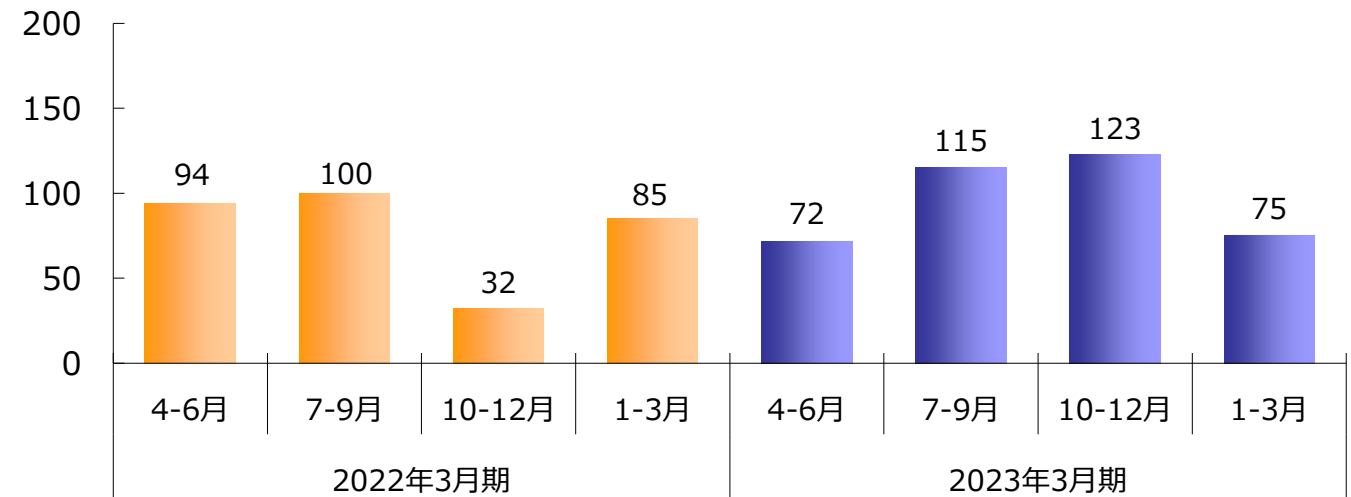
RFIDタグ用ゴム製品

溶剤を使わずに接着させる“分子接着・接合技術”を応用し、ICチップやアンテナ部をゴム素材で覆い、折り曲げに強く、耐水性、耐熱性に優れた、柔らかい小型のICタグ。



(単位：百万円)

四半期会計期間の売上高推移



- 最終ユーザーの北米市場において、7月以降、市場回復から受注が増加したが、第4四半期で再び在庫調整があり、先行きの不透明感は変わらない。

I -6. 連結子会社の損益実績

(単位：千円)

	株式会社朝日 F R 研究所		Asahi Crosslink Corporation	
設立	1987年4月		1999年6月	
資本金	10,000,000円		200,000米ドル	
業務内容	ゴム・プラスチックに関する研究		工業用ゴム製品の販売	
研究収入／売上高	173,650	前期増減率	124,000	前期増減率
		▲4.1%		3.6%
経常損益	791	▲54.5%	▲2,265	-
当期純損益	277	▲73.8%	▲1,209	-

※連結子会社のARI INTERNATIONAL CORPORATIONは、2023年4月1日付でAsahi Crosslink Corporationに社名変更しました。

円換算レート：1米ドル132.09円

	朝日橡膠（香港）有限公司		東莞朝日精密橡膠制品有限公司		朝日科技（上海）有限公司	
設立	2005年11月		2010年7月		2012年1月	
資本金	19,700,000香港ドル		17,551,530人民元		50,000,000円	
業務内容	工業用ゴム製品の販売		工業用ゴム製品の製造・販売		工業用ゴム製品の開発・設計・販売	
売上高	355,910	前期増減率	973,729	前期増減率	314,305	前期増減率
		4.1%		21.5%		▲2.9%
経常損益	▲26,454	-	87,211	339.9%	38,193	▲7.0%
当期純損益	▲26,454	-	76,059	283.7%	36,771	▲3.9%

円換算レート：1香港ドル16.86円

円換算レート：1人民元19.50円

円換算レート：1人民元19.50円

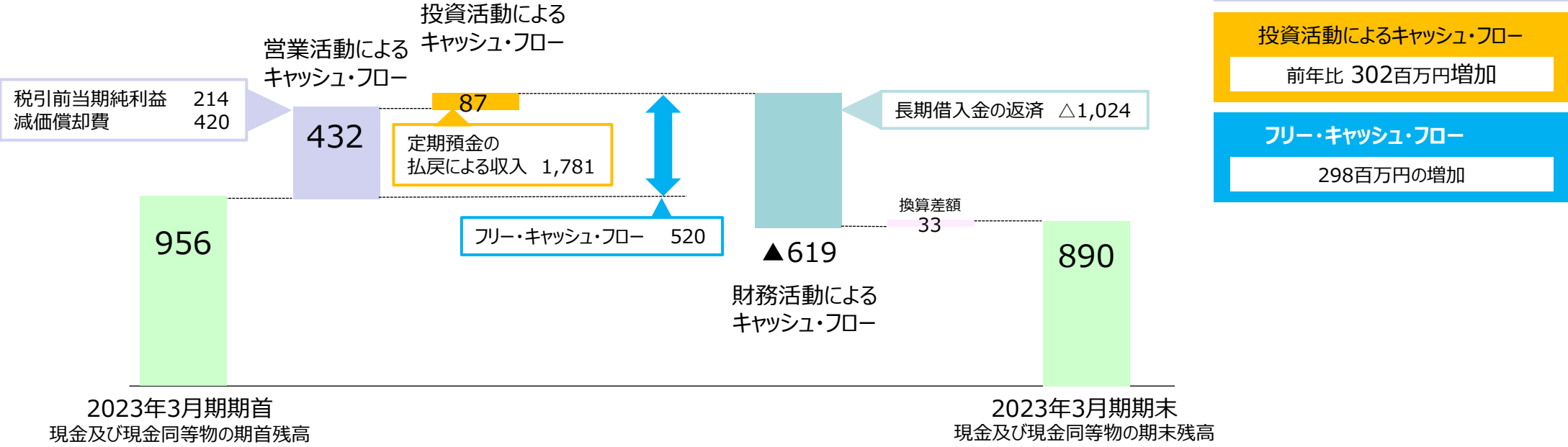
I-7. 連結貸借対照表の状況

(単位：百万円)

		2022年 3月末残高	2023年 3月末残高	差	主な変動理由
	流動資産	5,377	5,073	▲304	現金及び預金 ▲439百万円
	固定資産	4,342	4,313	▲28	建物及び構築物 ▲54百万円
資産合計		9,720	9,387	▲333	
	流動負債	2,526	2,367	▲158	1年内返済予定の長期借入金 ▲164百万円
	固定負債	2,517	2,129	▲388	長期借入金 ▲360百万円
負債合計		5,043	4,497	▲546	
純資産合計		4,676	4,889	+213	
負債純資産合計		9,720	9,387	▲333	

I-8. 連結キャッシュフロー実績

(百万円)



● 新型コロナウイルス感染症の影響から業績回復により、適正な手元資金水準の保有のため長期借入金を返済。

I. 2023年3月期決算実績

II. 第14次三カ年中期経営計画

III. 2024年3月期予測

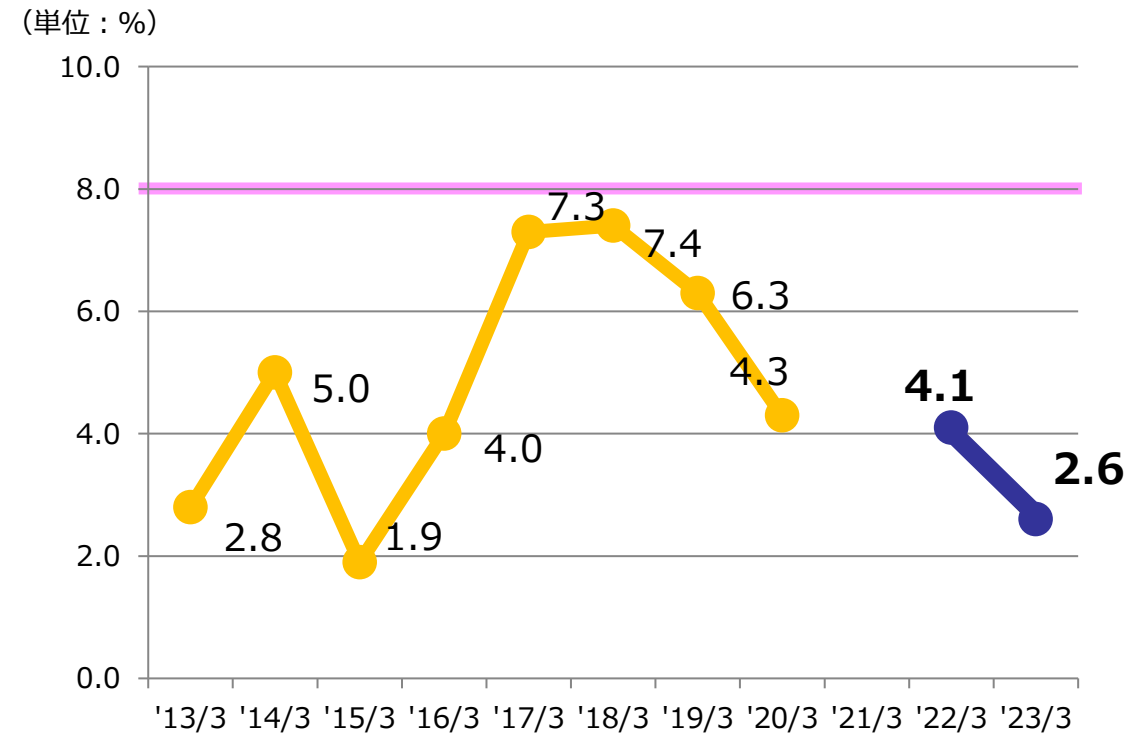
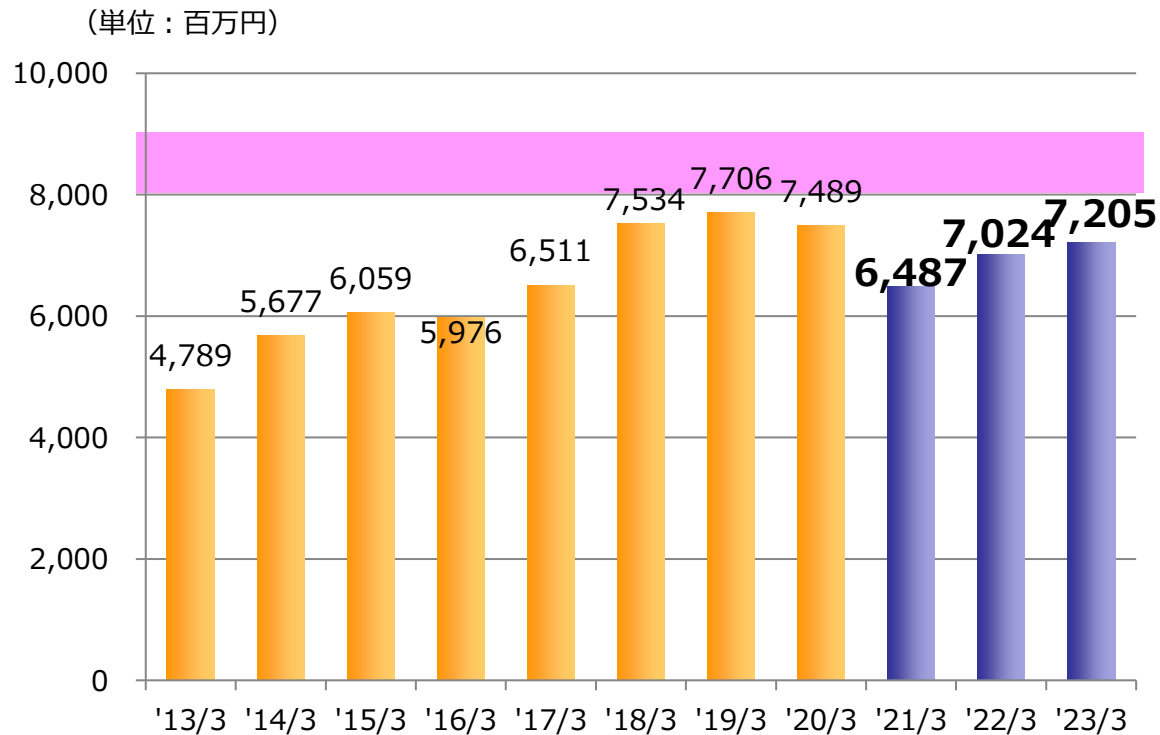
Ⅱ-1. 第14次三カ年中期経営計画 – 前中期計画の振り返り

第13次三カ年中期経営計画の振り返り

数値目標

2023年3月期連結売上高目標 80～90億円

連結営業利益率目標 8%以上



※2021年3月期は営業損失のため非表示

Ⅱ-2. 第14次三カ年中期経営計画 – 4 事業の振り返り

第13次三カ年中期経営計画 – 4 事業の振り返り

光学事業 2023年3月期目標売上高 40億円 実績 26億円

- ・新型コロナの影響を受け、自動車向けのASA COLOR LEDの売上高が減少したが、2022年前半はグローバルな市場回復で増加傾向となった。
- ・2022年後半から半導体不足等の影響を受けて受注が減少し、中期最終年度で未達となった。

医療・ライフサイエンス事業 2023年3月期目標売上高 15億円 実績 14.8億円

- ・新型コロナの影響を受け、検査・予防等の用途向けの需要が減少したが、2022年3月期後半から回復基調となった。
- ・第13次中期計画以前から取り組んでいた新製品のARチェックバルブの売上が貢献。

機能事業 2023年3月期目標売上高 21億円 実績 24.7億円

- ・新型コロナの影響を受け、自動車向け製品の受注が減少したが、2022年からグローバルな市場回復で増加傾向となった。
- ・卓球ラケット用ラバーの市場回復傾向に加え、顧客の新製品の受注を獲得しさらに増加傾向が続く。

通信事業 2023年3月期目標売上高 12億円 実績 6.3億円

- ・新型コロナの影響を受け、RFIDタグ用ゴム製品の受注が減少、一時期回復の兆しがあるもコロナ前の水準には戻っていない。
- ・開発案件の中止、延期などの影響から実績が計画から乖離したが、新たな案件への取り組みが進行中。

Ⅱ-3. 第14次三カ年中期経営計画 – 中期経営方針

中期経営方針 **魅力を高めて新たな価値を提供しよう**

テーマ **後継・Well-being**

スローガン **「新しいカタチ」に向かって 挑戦**

中期経営戦略 ①事業活動の深化・進化・新化



②スマートファクトリーの実践



③Well-beingを高める



④地域社会貢献



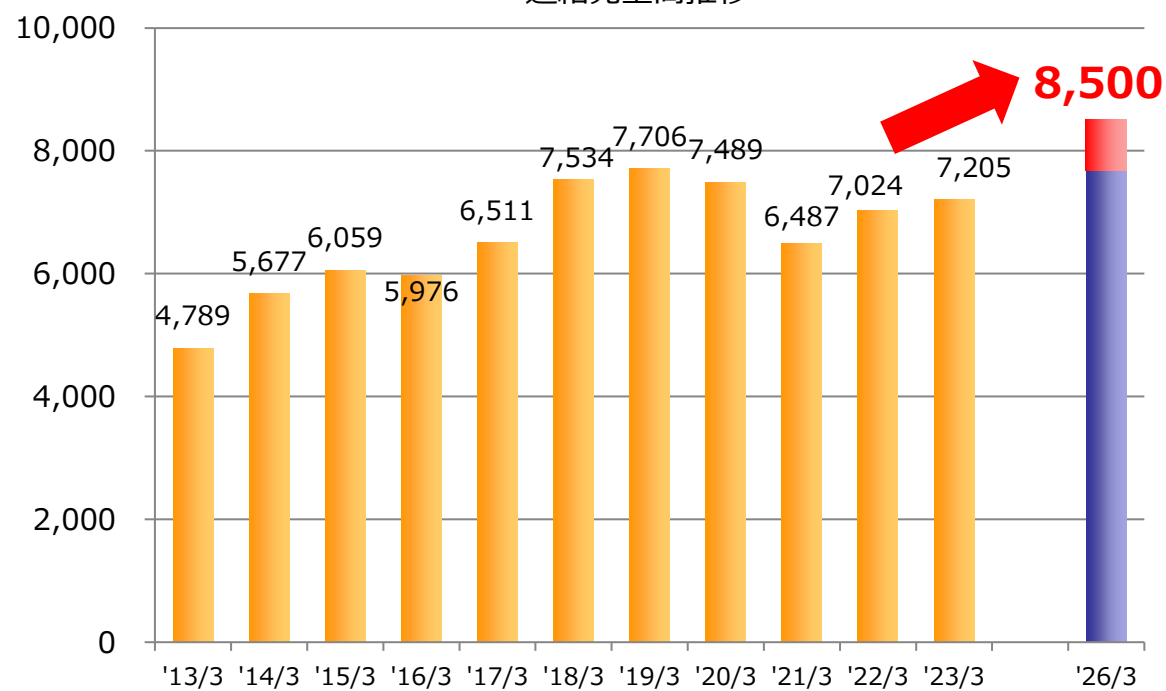
Ⅱ-4. 第14次三カ年中期経営計画 – 中期業績目標

数値目標

2026年3月期連結売上高目標 **85億円以上**
連結営業利益率目標 **5%以上**

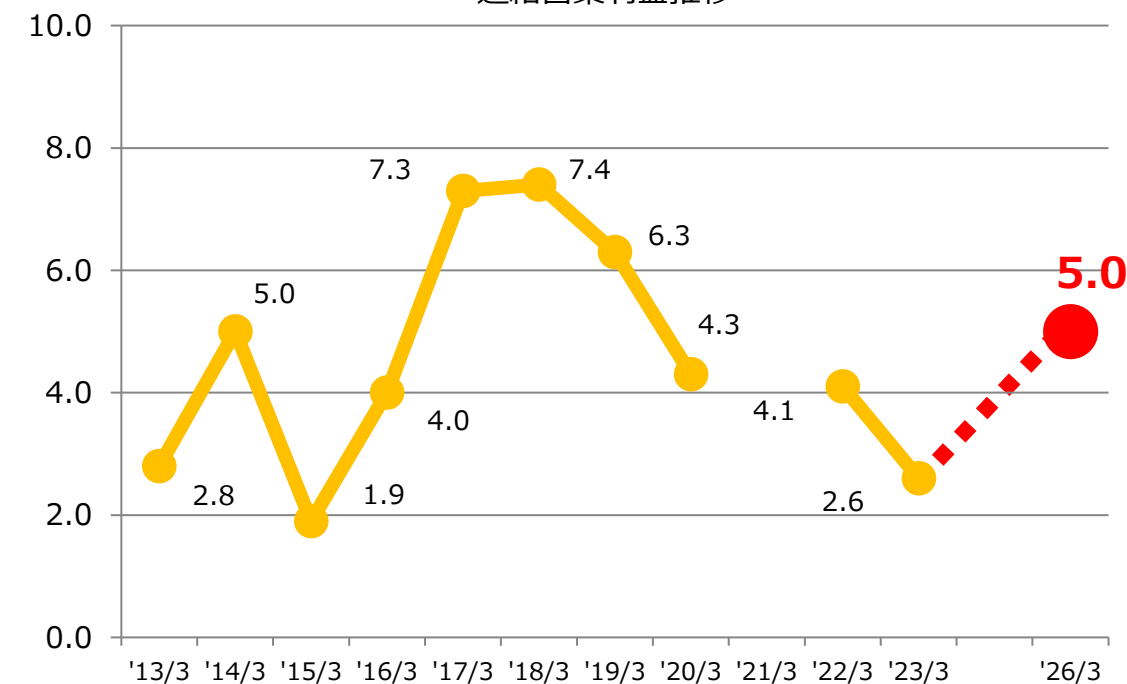
(単位：百万円)

連結売上高推移



(単位：%)

連結営業利益推移

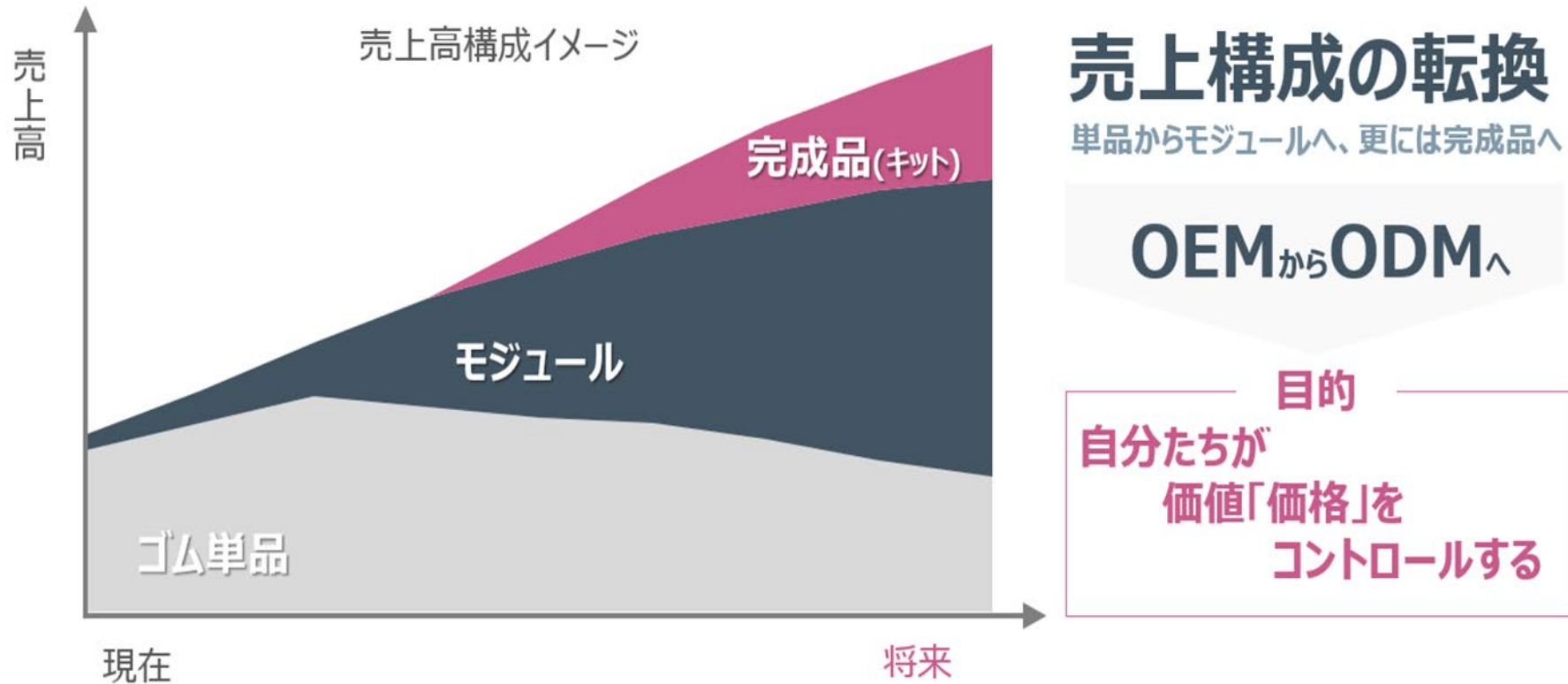


※2021年3月期は営業損失のため非表示

Ⅱ-5. 第14次三か年中期経営計画 – EXとCX



Ⅱ-6. 第14次三カ年中期経営計画 – OEMからODMへ



- 朝日ラバーの独自の技術による付加価値を、ゴム単品の配合・成形からモジュールや完成品を提供できるように進化させることで、「弾性無限」の可能性を製品に表現した新たな価値をもって市場参入機会を増やし、社会に貢献していく。

Ⅱ-7. 第14次三カ年中期経営計画 – 光学事業

「再構築と挑戦」 光の可能性を追求した高付加価値向上で市場に貢献する

標準製品の付加価値向上と複合モジュールの開発・展開



【連結売上高】

26億円

30億円

'23/3実績

'26/3目標

Ⅱ-7. 第14次三か年中期経営計画 ―医療・ライフサイエンス事業

「第二の柱へ成長させる」 朝日らしさで世界の医療現場と患者のQOL向上に貢献する

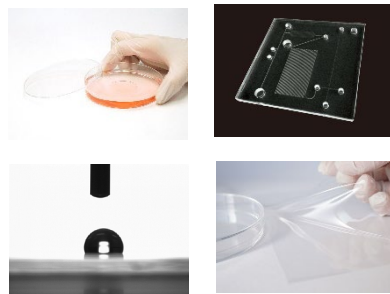
ODM設計・複合デバイスやシステム機器へ挑戦する

診断・治療機器を製造販売する企業を目指す

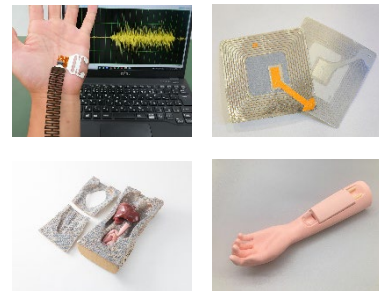
診断治療機器への貢献



診断治療デバイスへの貢献



新事業開拓



【連結売上高】

15億円

20億円

'23/3実績

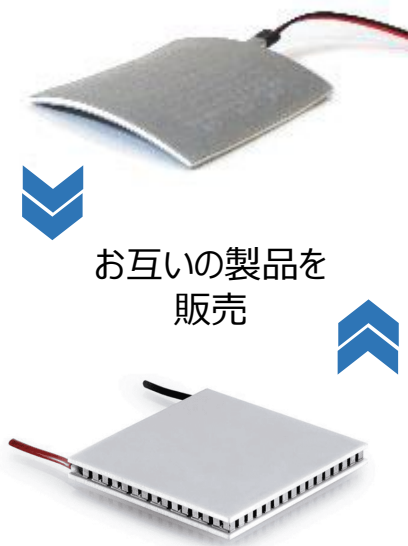
'26/3目標

Ⅱ-7. 第14次三カ年中期経営計画 ー機能事業

「新たな柱を創る」 ラストワンマイルを安心・安全につなぐ制御で貢献する

サーモモジュールの開発

フェローテックマテリアルテクノロジーズとの
販売連携活動を進める



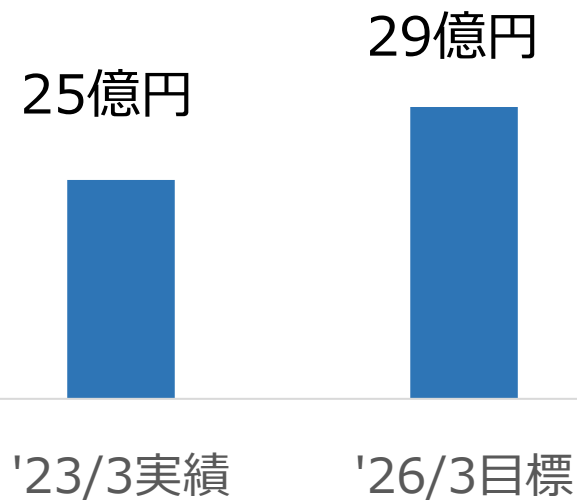
風力発電

O&M事業化に向けて前進する

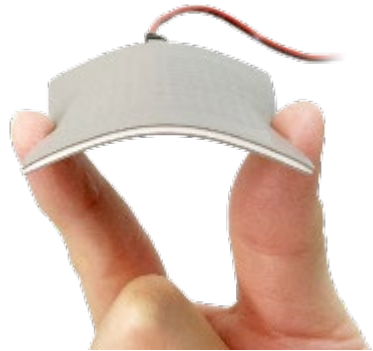
O&M : Operation and Maintenance
施設や設備の完工後に、保守操業を行う



【連結売上高】



Ⅱ-7. 第14次三カ年中期経営計画 ー機能事業



F-TEMとは？

開発の経緯は？

サーモモジュールは、ペルチェ素子、または熱電素子とも呼ばれる半導体の電子部品で、コンパクトなヒートポンプ部品として機能します。

朝日ラバーでは、サーモモジュールに使用される素子をゴムで覆うことで、“やわらかく曲げられる”サーモモジュールを開発・販売しています。

従来のサーモモジュールは固いセラミックスを使用しており、曲げることができませんでした。市場が変化する中で、「曲げることができれば良いのに」というお客様の声を受け、F-TEMの開発が始まりました。

フェローテックマテリアル
テクノロジーズ社

製造

セラミックス製
サーモモジュールを製造



販売

朝日ラバー製
F-TEMを販売



販売
特約店
契約

朝日ラバー

製造

F-TEMを製造



販売

FTMT社製
サーモモジュールを販売



Ⅱ-7. 第14次三か年中期経営計画 ー通信事業

「基礎基盤を固める」 伝える・伝わる価値でつながる社会に貢献する

「モノ・センサ・通信規格・情報処理アプリケーション」を駆使して
新たな社会価値への取り組みに参画してスマート社会の発展に貢献する



病院

施設内のIoT機器など

環境センシング

発電設備の故障検知など

交通インフラ

保護・施工管理など

環境センシング

農業スマート化など

【連結売上高】

6億円

6億円

'23/3実績

'26/3目標

Ⅱ-8. 第14次三カ年中期経営計画 –EX 取り組み

- 人材育成計画に基づく活動
- 労働環境の整備
- 温室効果ガス削減活動
- コンプライアンス実行力を高める

- 従業員の声を聞き反映させていく環境と体制整備
- ワークライフバランスの向上
- 健康、福利厚生活動の充実
- ITを利用した業務改善と働く環境整備



- ものづくりの自動化・合理化・省人化
- 内外作政策の促進
- 設計技術、生産技術の強化
- 知的財産力を高める

- 地域の方々との交流
- 地域活性化への支援

I. 2023年3月期決算実績

II. 第14次三カ年中期経営計画

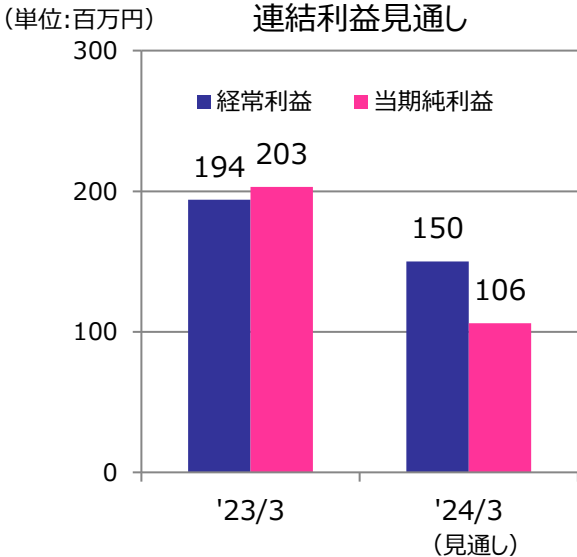
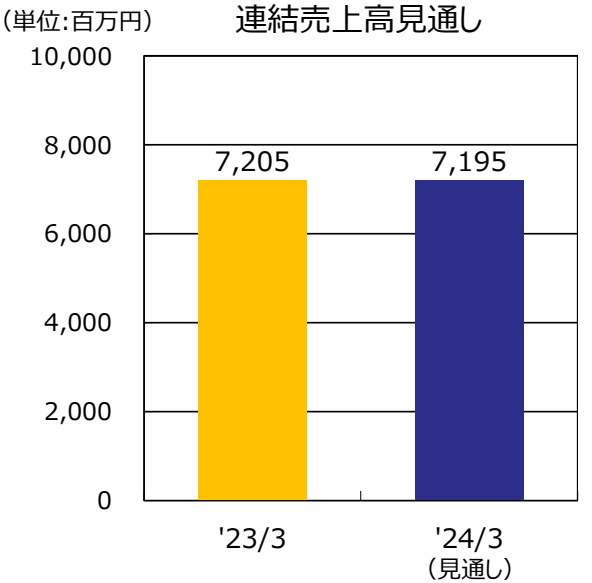
III. 2024年3月期予測

Ⅲ-1. 2024年3月期連結決算見通し（前期比）

(単位：百万円、%)

	2023年3月期		2024年3月期見通し		
	実績	構成比	見通し	構成比	前期増減率
売上高	7,205	100.0	7,195	100.0	▲0.1
売上総利益	1,758	24.4	1,739	24.2	▲1.1
営業利益	185	2.6	157	2.2	▲15.2
経常利益	194	2.7	150	2.1	▲23.0
当期純利益	203	2.8	106	1.5	▲47.8

● 期前半の自動車製品の受注減の影響から微減収。



(単位：百万円、%)

セグメント別	2023年3月期		2024年3月期見通し		
	実績	構成比	見通し	構成比	前期増減率
工業用ゴム事業	5,765	80.0	5,679	78.9	▲1.5
医療・衛生用ゴム事業	1,439	20.0	1,516	21.1	5.4
売上高	7,205	100.0	7,195	100.0	▲0.1

Ⅲ-1. 2024年3月期連結決算見通し（上期下期比較）

（単位：百万円、％）

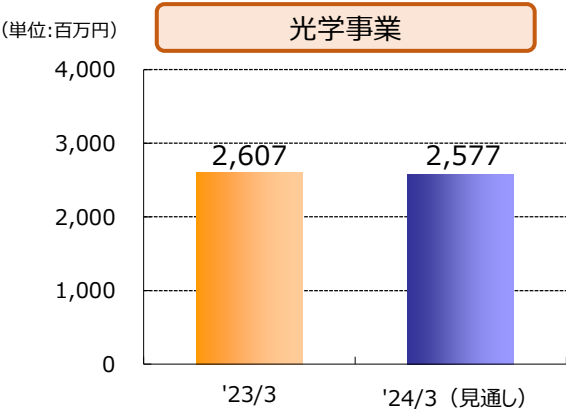
	上期 (2023年4月～9月)			下期 (2023年10月～2024年3月)			通期 (2023年4月～2024年3月)		
	見通し	構成比	前年同期 増減率	見通し	構成比	前年同期 増減率	見通し	構成比	前期 増減率
売上高	3,431	100.0	▲4.1	3,764	100.0	3.8	7,195	100.0	▲0.1
売上総利益	802	23.4	▲9.5	937	24.9	7.3	1,739	24.2	▲1.1
営業利益	28	0.8	▲79.3	129	3.4	158.1	157	2.2	▲15.2
経常利益	27	0.8	▲81.2	123	3.3	141.5	150	2.1	▲23.0
当期純利益	17	0.5	▲84.9	89	2.4	▲1.3	106	1.5	▲47.8

- ASA COLOR LEDなど自動車関連は、自動車メーカーの生産、販売が回復してきているものの、サプライチェーンでの在庫調整の影響から、上期は厳しい見通し。
- 下期は、自動車関連の製品の受注が回復する見込みであることや、医療用ゴム製品や卓球ラケット用ラバーの好調が継続する見込みであることから業績が回復する見通し。
- 材料価格高騰に対する販売価格転嫁の効果が今期から出始めるものの、昨年12月からの電力料アップの影響あり。

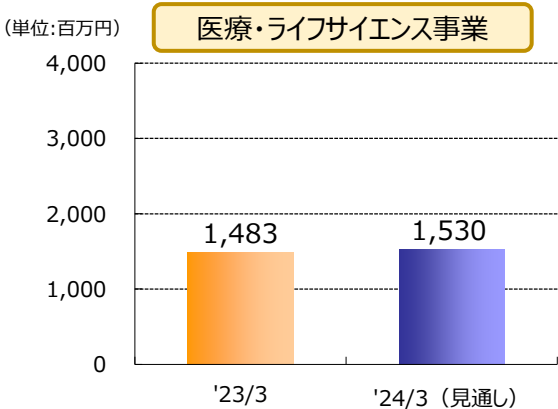
Ⅲ-2. 中期事業分野別見通し

(単位：百万円、%)

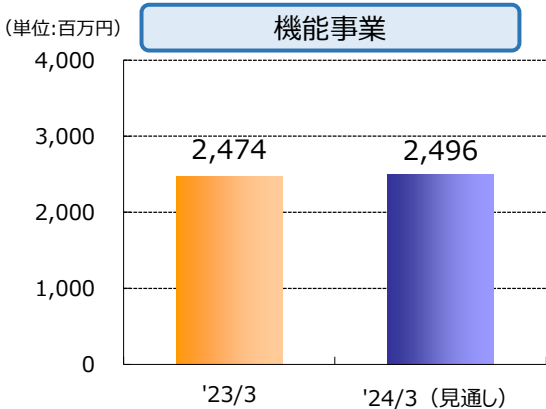
事業別売上高	2023年3月期		2024年3月期		
	実績	構成比	見通し	構成比	前期増減率
光 学 事 業	2,607	36.2	2,577	35.8	▲1.2
医療・ライフサイエンス事業	1,483	20.6	1,530	21.3	3.1
機 能 事 業	2,474	34.3	2,496	34.7	0.9
通 信 事 業	639	8.9	592	8.2	▲7.5
売 上 高 合 計	7,205	100.0	7,195	100.0	▲0.1



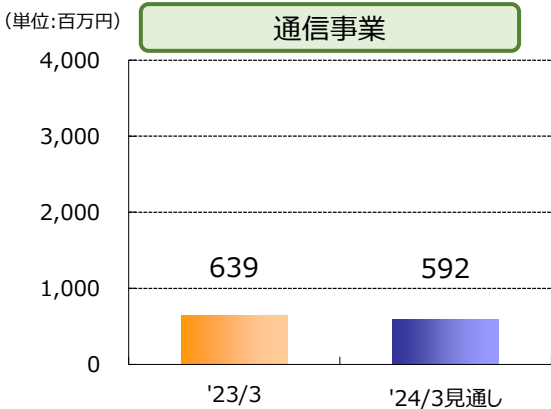
● 上期の自動車生産調整の影響を受け、通期でも減少する見通し。



● 製品全般で回復基調となり、さらに新製品も貢献し増加見通し。



● スイッチ用ゴムなど自動車向けの一部製品の受注は不透明感あり。卓球ラケット用ラバーの受注は好調。



● RFIDタグ用ゴム製品の受注はほぼ変わらず。

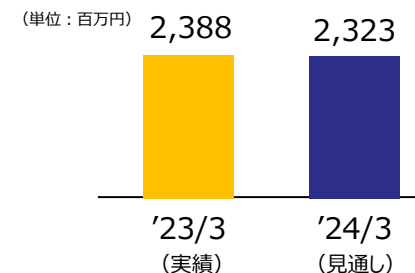
Ⅲ-3. 主要製品の通期売上見通し

ASA COLOR LED

工業用ゴム事業

光学事業

- ・自動車市場は回復傾向だが、上期の受注回復は遅れる見通し。
- ・下期以降、サプライチェーンの正常化に伴い、受注が回復する見込み。

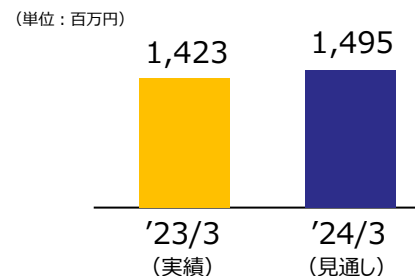


医療用ゴム製品

医療・衛生用ゴム事業

医療・ライフサイエンス事業

- ・一部の用途の製品の在庫調整は解消し、コロナ後の増加傾向が続く。
- ・新規製品のARチェックバルブの市場投入を進める。

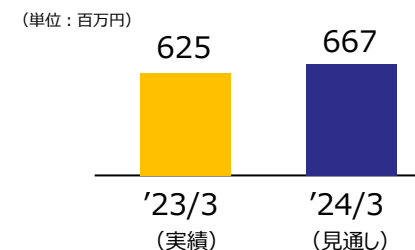


卓球ラケット用ラバー

工業用ゴム事業

機能事業

- ・市場の需要回復により、さらに受注が拡大する見通し。
- ・既存製品の受注増と新製品の生産スタートで売上高増加の見込み。

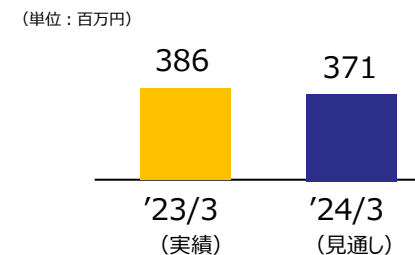


RFIDタグ用ゴム製品

工業用ゴム事業

通信事業

- ・半導体不足の影響は緩和されつつあるものの、市場環境の不透明さが続く。



Ⅲ-4. 連結設備投資計画

(単位：百万円)

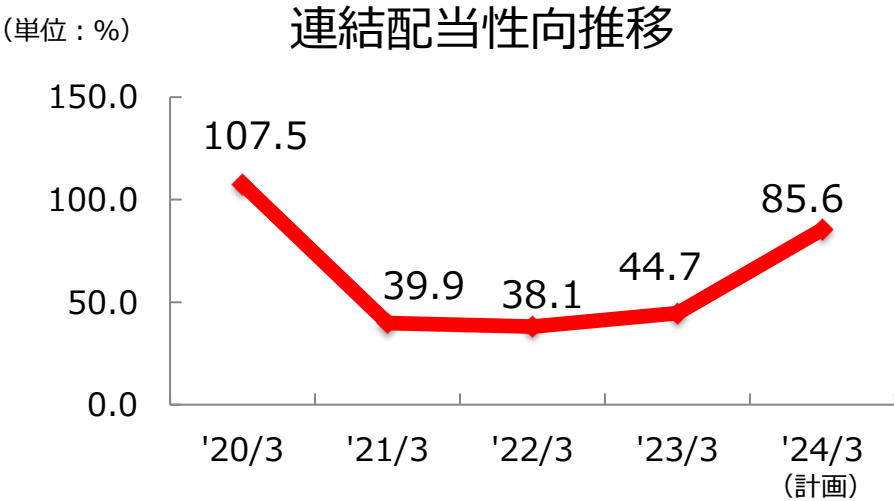
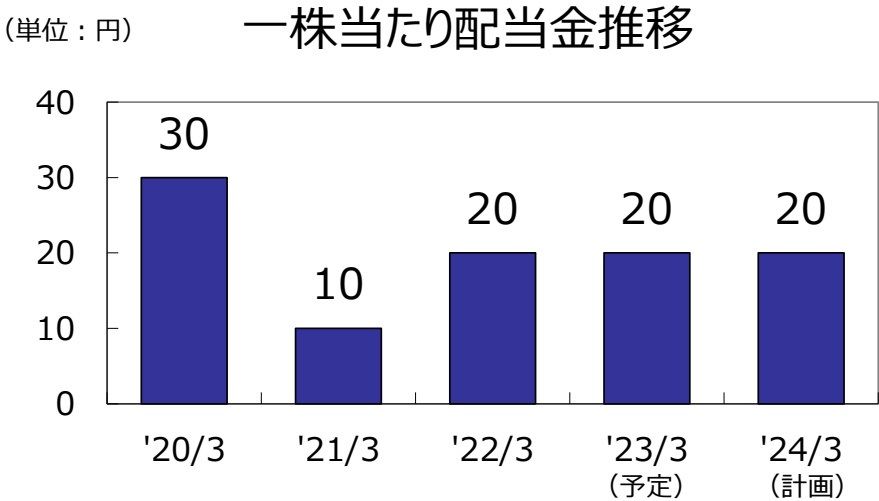
	2024年3月期 通期計画	主な内容
光学事業	145	LED生産設備効率化設備など
医療・ライフサイエンス事業	90	回路製品、ARチェックバルブの生産設備導入など
機能事業	120	風力発電生産設備導入など
通信事業	10	やわらか保護カバー生産設備など
その他	35	インボイス制度対応等IT投資など
合計 (減価償却費)	400 (425)	

● 将来の事業拡大に向けた設備投資を計画。

Ⅲ-5. 2024年3月期配当計画

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
中間配当	10円	—	10円	10円	10円 (計画)
期末配当	20円※	10円	10円	10円 (予定)	10円 (計画)
年間	30円	10円	20円	20円 (予定)	20円 (計画)

※2020年3月期の期末配当は普通配当10円と記念配当10円を実施



● 中間配当、期末配当とも一株当たり10円を計画。

お断り

当資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、当資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。

しかしながら実際には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、当資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社は、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいりますが、当資料記載の業績見通しのみに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送などを行われないようにお願いいたします。

当資料についてのお問い合わせ先
株式会社朝日ラバー 管理本部経営企画部
TEL 048-650-6056